

327

404

靈智學運動歴史の事實

013787-000-2

327-404

靈智學運動歴史の事實

ジョセフ・エッチ・フセル/著

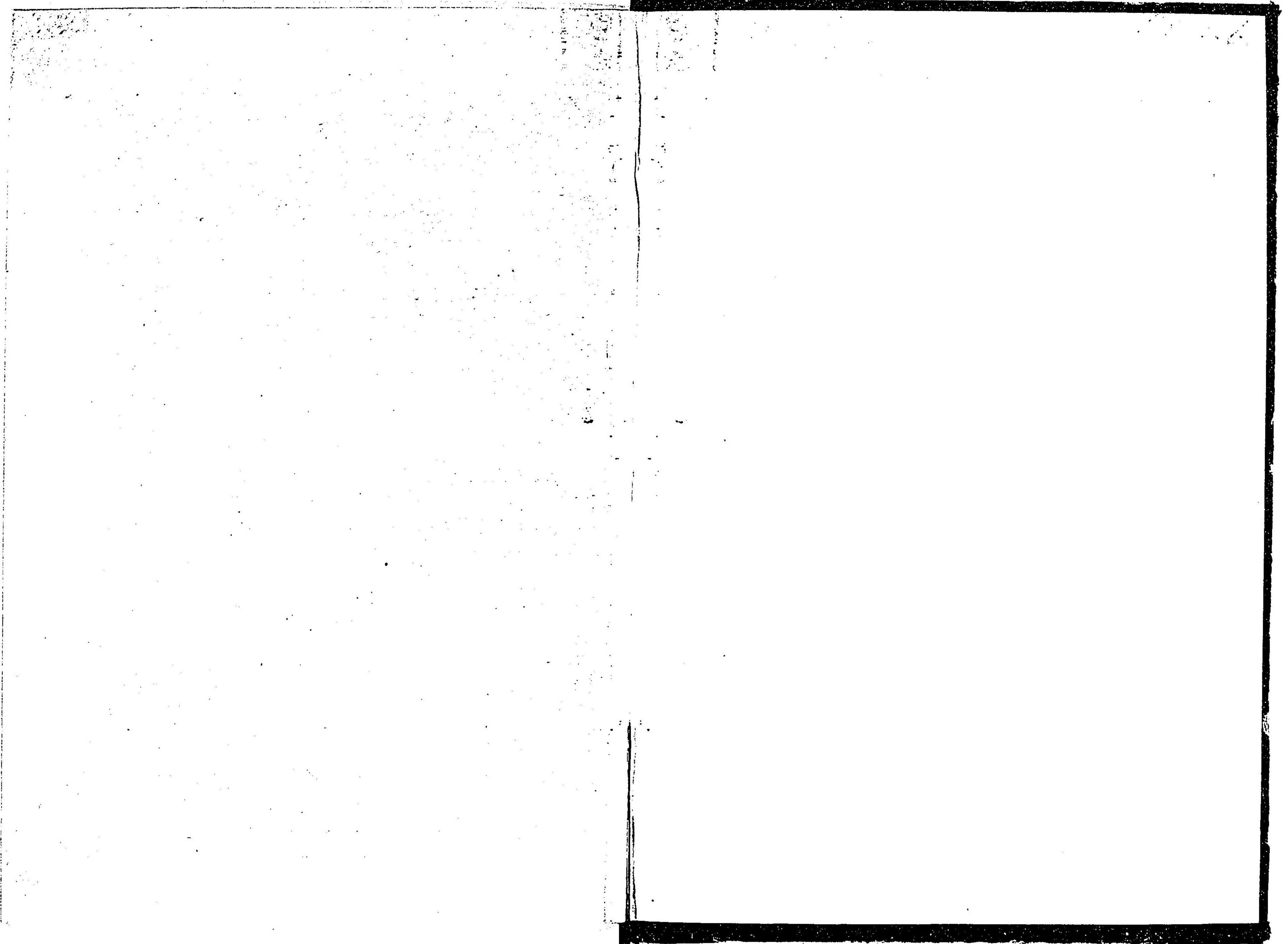
イーエス・ステブンスン/訳

宇高 兵作/訳

M44

ABA-0277



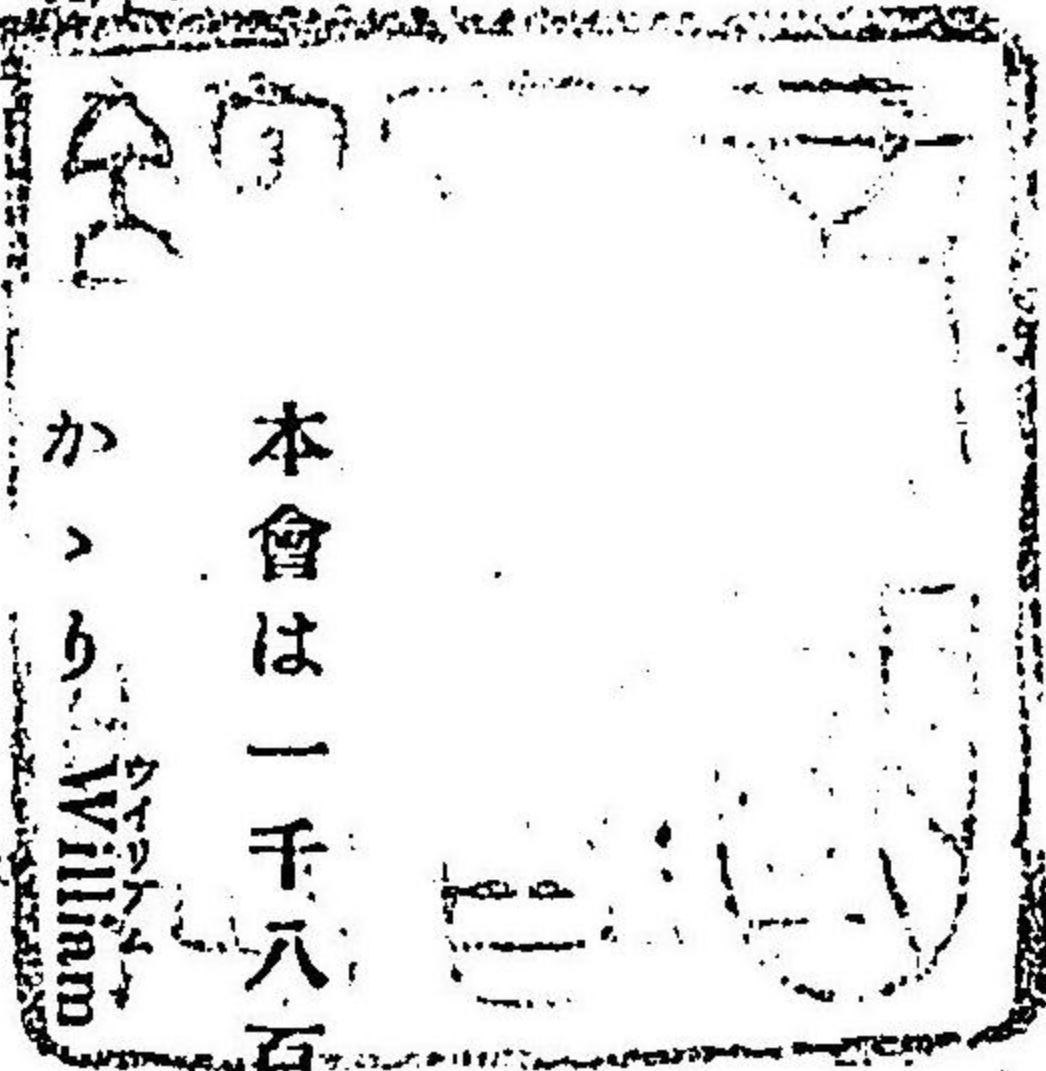


327-404

# 靈智學運動歴史の事實

世界同胞及靈智學會總務

Joseph H. Fussell 述



本會は一千八百七十五年紐育市に於て H. P. BAVATSKY 女史の創立にかゝり William O. Judge 氏によりて繼續せられ、現今は其後繼者 Katherine Tingley 女史の指導の許にあり。

44. 1. 13  
丙亥

## 緒言

茲に述べんとする事實は、靈智學運動に關して起りたる事件の少數に過ぎずして、單に問題の端末を記載したのみであるが、靈智學運動の眞の目的を多少世に知らしめ、又其の運動が受けたる多數攻撃の根本及び動機の真相を明かにして、以て世人の抱ける誤解を幾分か除去せん事を期するものである。併し紙面に限りあれば、重要な事柄も多く省略せざるを得ない。此等はカセリン、チングリー女史が今著述中の『靈智學會及其の指導者に對する陰謀』中に詳細に記述せらるゝであらう。其の中には靈智學及び其の指導者が種々案外の方面より受けたる迫害に就て驚くべき事實が多く書いてある。

併し虚言でも、一旦世人に傳はれば、之れを打ち消す事は甚だ困難であると云ふ事が明かである。耶蘇は『吾は此の世に平和の使命を帯び來れるにわらず、劍を帯び來れり。』と云ふた。而して純粹の眞理を顯はすには此の言を適用すべきである。併し耶蘇の使命は實際平和の使命であつた如く、靈智學運動の使命も矢張平和及び世界同胞主義である。人類の幸福をはかる運動には凡て敵があるものである。其敵は故意に反對するのみならず、自分の利己的事業が侵害せらるるが故

に、虚偽の事柄を世人に流布する事を業とする。又靈智學の眞の目的を知らずして、之を攻撃する人もある。後者の場合では靈智學の眞相が明かに了解せらるれば、彼等は之を信仰するまでには至らずとも、兎に角に之を寛容するに至る望がある。併し前者の場合では如何であるか。又それから傳説や教から生ずる宗教的偏見がある。此等の場合は往々眞面目であつて、たとへ攻撃をしても陰謀的でないから、公然と之に答應する事が出来る。

併し人の蔭にかくれ譏謗又は無名投書などをなす事は悪みても猶餘りあることである。かゝる事をなす人は形こそ人體を有して居ても中に靈性の光ある人情を有つた人と云ふことが出来やうか。否、彼等にして之ありと云ふのは人類に對する侮蔑ではあるまいか。奥義の眞理及び神通力を有し、人性を全く覺ると自稱して、此等の悪口や譏謗を知りながら、之を許容する人こそ如何なるものであるか。彼等は神聖なる因果應報の理を免かるゝ事が出来やうか。靈智學は同胞主義を教へ、而して世界同胞主義は靈智學運動の第一の目的である。併し同胞主義とは如何なるものであるか。同胞主義とは、同胞の上に降りかゝらんとする危害に對して、冷淡なる事であるか。又同胞主義とは道德上の腐敗者をして家庭の神聖を犯さしめ、無邪氣の小供と自由に交らしめ其惡影響を小供に及さしめ、遂に小供の一身を誤らしむる事であるか。又同胞主義とは厭ふべき傳

染病に罹れる人と食卓を同うして飲食を共にせしめ、家族のものと同交際せしむる事であるか。否、眞の同胞主義とはそんな愚かな女々しい感情的の事ではない。靈智學の目より見れば最高の常識に適ひたる同胞主義とは、公平と云ふ事を含んで居る。即ち無邪氣纖弱で東西も分らぬ小供に對する公平と云ふ事で、無智の者に對する智者の責任である。眞の同胞は人の感情を害する事を恐れて人の過を指摘するを遠慮せず、人に過をなさしめざる様其の人及び他人を注意せしむるものである。進化の大法則に於ては人間は或る目的を以て生存して居る。又其の目的を遂げるには吾人の性質中の不死、神聖の部分に適ふ所のみを修養しなければならぬ。即ち吾人を淳化し向上せしむる性質に従はなければならぬ。

斯くして吾人は善良なる人間となり、神聖の家庭を作り、忠實なる人民たる事が出来るのである。カセリン、チングリー女史は如く教へて居る。即ち靈智學運動に努力すると云ふ人、或は其の教や事業を保護すると云ふ人、或は精神的力を修養して精神的生活を送つて居ると人に思はしむる人が、もし自分の家族及び他に對する義務を怠るならば、其の様な人は知りながら靈智學の主義に全然背いて居るのである。又カセリン、チングリー女史は偽善的所謂靈智學の布教に伴ふ惡影響を根絶するには現世紀中未嘗て見ざる大努力を要すと斷言して居る。吾等は靈智學

即ち神聖なる智慧の研究者として寛大主義を守らんとして居れど、一つの義務を盡さなければならぬ。而してブラッヅキー女史の云つて居る如く、靈智學者は何處までも己の義務を盡さなければならぬ。又あらゆる悪事に敵對し、又單に敵對するのみならず、人を善に導く事をも努めなければならぬ。

耶蘇が寺から「金貨」を追ひ拂つたのは儘に此の精神を以てしたに違ひない。神聖の智慧を有すと自稱して他人を欺かんとするものを戒め之に與しなかつた耶蘇は非難すべきものであるか。併し其の時代の人の中には耶蘇の行爲は非常に同胞主義に背いて居たと思ふものも儘に有つたに違ひない。靈智學者の義務は耶蘇の義務と同様である、即ち「真理の寺」を保護し、人をして人生の正しき道を踏み誤らしむるものに敵對しなければならぬ。現今の世では己の良心を壓睡せしめ神を崇めながら自然を満たす事が出来る。即ち下等の性質の要求を充たしながら、高尚の智慧を求むる事が出来ると己を欺いて居るものがある。併し苦しんで居る憐な人間の必要なるものは、只口先の言にわらずして、實際の行である。即ち平和を豫言し一時的慰安の言葉をかけ、世を瞞着する事にわらずして、單純明白の真理を教へ悪鬼に敵對し、人を勵まし、以て新に努力を起さしむる如き獎勵を要するのである。即ち此の事實を述ぶるは之が爲である。

### 一千九百十年四月五日發行のサンデアゴユニオンの拔萃

J. H. Russell 氏は去る月曜日 Isis 講堂に於て Aryan 靈智學會の司會の許に『靈智學運動の歴史の事實』に就て講演せられたり。氏の問題は一時間半の長さに渡るものなりしも、其の事柄は非常に趣味ありて、中には重要な事も多くありしを以て、聴衆は其の終に至るまで注意を以て傾聴したり。氏は一八七五年にブ女史が靈智學會を創立せんが爲に、紐育市に來りし當時の世界の狀態及び唯物論者、科學者、亡魂論者及び所謂耶蘇教徒に彼女が齎らし來れる使命、又は此等社會の人々の中より敵味方の生じたる事等を論述せられたり。殊にブ女史が其の忠實なる同僚にして後繼者たる William D. Judge 氏に宛てたる手簡及び彼に就ての評、就中氏が再設されたる靈智學會の現會長カセリンチングリー女史の許諾を得て公にせし同密部の小歴史は最も注意を引くものなりき。

### 靈智學運動歴史の事實

現代の思想界に通じた者で三四十年度の過去を顧る人は、必ず何人も爾來起り來つた變化の大なるに驚かない者はあるまい。現今の青年は、其の父祖時代に於ける世の狀態を考へ、又世界の大勢を一變したる、然かも今日に於ては普通の思想、研究及び發明の新世界に至りたる經路を想像する事は出來ないであらう。ブラヴァツキー女史を想起し、其の事業の歴史畫を如何にして描出すべきかを考ふるに當り、其の畫題として余の心中に浮び出づるものは、遙に其の時代よりも進み、若し應用し得べくんば、世人の重荷を卸して苦痛を癒すべき大發見、即ち同胞の利益を計りたる大科學者を思ひ起すのである。

此の大發見者は己れの新智識を世界に紹介するにあらゆる手段方法を用ひるであらう。プ女史が靈智學を發見したのは恰も此の様であつた。彼女は此の發見したる眞理の力を世人に紹介せんと努めたのである。プ女史及び其の著書を知る人の言に依れば女史は大智識を蓄へて居たばかりでなく、又世人の必要を覺つて居たと云ふ事實は明瞭である。又夫人の偉大なる知感力は其の敵すらも認め、亦女史の心機及び努力の眞相を多少知る人々は、其の大智識を幾分か知る事が出來

るであらう。

入

### 唯物論者、亡魂論者、耶蘇教信者、及び科學者。

#### 其の敵味方に對するブ女史の使命。

ブ女史が靈智學會の創立を目的として亞米利加に來りし頃は、唯物論は其絶頂に達して居つた。併し其の唯物論者の中に大勢力のありし事は認められた。唯物論を唱ふるもの、中には彼の精神界の多くの人が缺いで居た真誠の精神を有して居つた者が多數あつた。即ち其の唯物論者の大多數は、耶蘇會堂の教を信せずして、脱會してしまつた。如何となれば其の信者の行爲は其の信仰の眞なる事を證するものであると云ふ耶蘇教の教訓は實際行はれて居なかつた事を見たらからである。會堂の教訓を信ぜざるもの、一例として Robert Ingersoll を擧げやう。彼は己の智識に依つて出來る限り同胞を向上せしめんと努めた。吾人は細かい點迄も彼の意見と一致する事は出來ないが、彼は來生の望を捨て、も、自分の信仰は捨てないと云ふ勇氣があつた。彼の如き人は他にも多數あつた。又他の人は會堂の教訓に己の精神の向上をはかる道がなく、又眞理を求むる所を知らず、極端に走り、人間の生を支配する靈魂を無視して、自暴自棄となり、又人間が眞理を學ぶ

べき道は只だ腦髓の力に依つてのみ出來得る事と思つて居つたのである。

ブ女史が此等の人々に對する大なる使命を帯びて來りし事は、靈智學を研究する者の能く知る所である。而して唯物論者の説に就きブ女史は非難はしたれど、其を信する眞誠なる者の中には一種の熱誠と向上心の有つた事を認めた。それが爲めブ女史は熱心に同情を寄せ、物質界中に潛める奧義的眞理を彼等に示さんと全力を盡した。

併しブ女史は世に教ふべき事は多くあつたが、自分の活動し得べき時期の熟さざる事を悟つた。故に世界思想の只一部分に接するのみならず、萬人の心に反響を起すべき新思想を實現する事が彼女の使命であつた。もし或る一方面のみに全力を盡したならば世界萬人、即ち思想のあらゆる方面に適する靈智學の深い眞理を現はす自分の大使命を果す事が出來なかつたであらう。

これより或る意味に於て唯物論と反する亡魂論の事を云はう。其の亡魂論者中には幾百の誠實なる人々があつて、其多くは耶蘇教會の教訓に満足する事が出來ずして教會を去り、他の道に向つた。ブ女史は又此等の人に對しても、使命を有して居た。恰も唯物論者に對して精神界の眞理を悟らしむるに努める如く、亡魂論者を教ふるにても同じく此の同一の精神界に注意を拂はしめ、彼等の研究しつゝ、ありし事は此の世の範圍外にある一層細微なる他の物質の世界に過ぎざる事



を知らしめた。而して靈魂が一度其の肉體を放るれば次に此の世に生れ變つて新しい肉體に入るまでは此の世に歸らないと云ふ事を教へた。或る人の信ずる所に依れば、ブ女史は降魂術を研究したが爲に之を信仰して居たと云うて居る。併し、彼女の著書を読んだものは、そんな事は決してないと云ふ事を能く知つて居る。靈智學には降魂術の現象が委しく説明してある、此の説明を一度理解すれば精神界の智識を求めんとする人は其の様な術に依頼しないであらう。亡魂論者中には眞誠なる人々は多くあるけれども、又眞誠でない人もある。此の降魂術及び心靈現象を研究するには危険の伴ふ事を指摘し、眞の智識は外の方面にある事を教へるのは、ブ女史の使命の一部分であつた。吾等が前に云つた通り唯物論者及び亡魂論者中には眞理を求めて居る人が多くあつた。併し又世の常にもれず野心勃勃として先きに立ちたがり、何事に依らず自分の思想に反對する事を烈しく攻撃するものもあつた。それ故に此の唯物論及び亡魂論を唱へた人の中に、ブ女史の敵が多かつた、併し亦味方も多かつた。其の味方の中には唯物論も亡魂論も打ち捨て、以前に求めて得られなかつた眞理を靈智學に依つて求めたものがあつた。

それから又、ブ女史は耶穌教信者にも使命を有つて居た。彼等は或る意味から云へば極端なる唯物論と亡魂論との中間にあるものである。そして彼等の多くは熱心がなくなつて、只自分の信仰

によつて、又或る定つた義式を守つて居れば、自分の靈魂は救はれると云ふ教に満足して居るからである。併し彼等の總てが左様な者ではなかつた。多くは矢張其の教會に留つて居りながら、眞理を熱心に求めて居つて、そして耶穌の性質及び此の世に來た使命の眞の意味を教へる靈智學を歓迎したのである。併し靈智學、特に其の指導者なるブ女史及び其の後繼者の眞の教は多くは矢張此の教會から出たのである。

此の事に就ては後に云はう。併し宗教的束縛は三十五年前にブ女史が此の米國に來りし時と同様に、此の廿世紀の始にも矢張あるのである。それは恰も眞理を破壊せんとするものは此の眞理が世間一般に行き亘れば自分の權利がなくなる事を恐れて居る様である。眞理の使命を帯びて來た者に對して斯の如き敵意を表するのは實に世の中の墮落の状態を證するものではあるまいか。又靈智學の敵も味方も現はれた。他の社會の事も云はなければならぬ。それは科學者の大なる社會である。其の中には最も眞理を貴重し、其を得るには如何なるものをも犠牲に供する事を厭はないけれども、獨斷的であつて、他の方面から出た眞理、或は自分等の好む理論を破壊せんとする議論を甚だしく嫌つて居る。併し靈智學が科學界に與へた眞理は年々認められる様になり、又ブ女史の教の眞理を證する物は年々現はれて居る。つまり古人の智慧の眞理は新に證明せられ、

近世の科學は太古の智識に益々近づいて來るのである。ブ女史が靈智學會を創立した初年に於ては、攻撃は到る處から起り、そして其の敵は一個人ばかりでなく耶蘇教會や唯物論者などが、云はば一般に彼女の事業を妨害せんと努めたのである。そののみならず、又新聞紙も此の冷酷なる事を補助し、非難や罵詈を以てブ女史を社會から排斥せんとした。此は半ば新聞紙の自己の偏見のためで、又半ば讀者の歡心を得んが爲めであつた。從來の事を知らざる讀者は、恰も申し合せた様にあらゆる方面より殆んど壓倒せんばかりの攻撃がブ女史に向つて起つた事は、誰も知らない。此の迫害の波動は廣く人心に大なる影響を及ぼした。併しブ女史は決して挫けず、古代の智庫より採りたる真理の砲彈を注ぎかけて止まなかつたのである。

### 印度に於けるブ女史の事業。 Adyar の假本部。

クローム陰謀の露顯。偽證者の言に基きたる

### 心霊研究會の報告。

前に述べた如くブ女史は靈智學會を組織して種々思想界から多くの人を引き寄せた後に印度に渡り、彼の地に於ける英國人及び土着の人の中間に最も進取的の人々の注意を引いたが、此處に於

ても又敵も味方も出來た。併し野師はブ女史の真理の光輝及び其の事業の勢力に堪へ得ずして、殆ど彼等の勢力は地に落ちんとし、糊口の道にも窮せんばかりであつた。それ故に恐らくは歐米の同宗者の差圖に依つて彼等はブ女史を攻撃する一手段として、彼女は野師、詐偽者であると云ひふらしたのである。

此事は一千八百四年の事であつて、ブ女史は印度マドラスのアツチアールと云ふ處に假本部を建設した。此の本部の建築費及び他の費用は大部分米國の會員が出した金を以て拂つたのである。印度の此の本部に對して寄附或は義捐をした人々の多數は米國靈智學會員であつた。そして彼等は後に至つて Brewster 夫人及び O'Connell 大佐が Rogers 氏を攻撃した時に、彼に補助を與へた。其の當時其の米國の會員は自分が補助して建設した此の印度の假本部に對して、少しも權利を主張しなかつた。併し其の印度本部は靈智學を廣むるに重要な處として現今の眞の靈智學者に依つて少しも認められて居ない。

ブ女史は印度を去つて、後に其の本部を倫敦に建設して死ぬるまで其處に居た。ブ女史に關して虚造されたる最も甚しき非難は佛人クローム夫妻から起つたのである。彼等は家もなく財産もないもので、ボンベイ市で、ブ女史に衣食を求めたのである。そこでブ女史は彼等を救つて遣

つたのみならず、印度本部の守衛として雇つてやつたのである。それにも拘らず此の二人の恩知らずの悪人は陰謀を以てブ女史の親切に報いたのである。

ブ女史が歐洲へ歸る爲め、本部を去るに就いて此のクローム夫妻を其の家の留守番にして置いた。今茲で話の詳細を述べんに、クロームは器用な大工で部屋の仕事の壁に穴を開け、又落戸を造つて、ブ女史が公衆を瞞着するに手品を使つた様に見せかけやうとした話は、詳しく述べる必要はない。此の事は單純明白な陰謀であつたと云ふ事は、次の事實に依つて充分に證明の出来る事である。即ち此の陰謀の起る少し以前に、クロームの妻は、ある靈智學會員から金銭をゆすり取らうとして、發見せられた。或る場合には成功した事もある、併しブ女史により之を禁止せられた時にクロームの妻は信用すべき人の面前で其の復讐をしようと云つた。

マドラスの耶蘇教神學校の宣教師は、もしクロームの妻が、ブ女史の書いた或る手簡を手に入れたならば、一千ルービーの金を彼女に與へやうと云つた事は、後になつて分つて、マドラスの Daily Mail と云ふ新聞に出た。又クローム夫妻は、自分の仕業が露顯した時に、其の陰謀を自白し、クロームの妻が、宣教師に渡した手簡は偽造であつた事も分り、又彼等の拵へた落戸や引戸は槌を用ひなければ容易に開閉が出来ず、又此の二人の虚偽の申立は多くの信用ある證人に依

て否認せられた。

以上は或る會の代表者として、學校から出て間もない無經驗の青年が、ブ女史の行つた現象の事に付いて取調の爲め印度に到着した當時の有様であつた。其の會と云ふのは、近頃英國に設置せられたものであつて、其の事業に世人の注意を引く様な何か珍らしい活動をしよと頻りに努めて居たのである。此の青年とは「心靈研究會」の代表者たる Richard Hodgson と云ふ人であつて、彼が印度の本部に到着したのは、ブ女史が其の陰謀を調査せしむる爲に、自分の代表者として派遣した、ジャッジ氏が到着してから五六日後の事であつた。ホジソン氏が到着した時は、既に壁の穴は閉ぢてあり、落戸も引戸も取り外して仕舞つてあつて、其の様なものは跡形も見えなかつたのである。然るに、彼は此穴や戸を圖面に寫し取つて居る。そして心靈研究會が後に採用して公にした彼の報告中には此は自分手づから寸方を取つて書いたものだといつて居る。併し此の書き取り圖はジャッジ氏が書いたのを寫したもので、此の青年に依つて剽竊せられたものである。心靈研究會がブ女史の人格及其の事業に就き譏誣の報告をしたのは、此の様な虚偽に基いて居る。そして之が爲に、ブ女史に對する迫害が一層烈しくなつたのみならず、世界中の黄色新聞紙は所謂靈智學會の詐偽事件を書き立てたのである。併し余の知る處では此の攻撃に對してブ女

史の答辯或は其の友人の辯解を聞き求めやうとした新聞は此の國には一つもなかつた。

此の報告は今でも其の會の記録に残つて居るかも知れぬが、全然事實無根であつて、自白したる偽造者、及び思知らずの偽證者、及び他人の圖書を自分のものと偽つた青年の言に基いたものであると云ふ事は度々證明されたにも拘らず、尙ほ今日に至るも時々耳にする處である。

Dr. Elliott Coates がジャツジ氏を攻撃して

其の虚妄を發かれ、靈智學會より追放せらる

紐育のサン(新聞)ブ女史に對する誹譏文を掲げ

後に至つて自ら取消文を出す。

私は既に一般の科學者の態度に就いて述べました、そしてその中に靈智學運動の最も大なる敵の一人は(始めの程は味方で多分眞面目に靈智學の教を守つて居た)學才のある人であつたが、性質は野心勃勃として人の先に立たうと希望して居た。ブ女史が印度へ向け米國を立つた時に、靈智學の事業を引き受くべき人はジャツジ氏であつた。ブ女史が一八八八年に米國の會員に書を送つて云はれた如く、實に米國に靈智學をして跡を絶たしめなかつたのは全く彼のお蔭であつたのである。

である。

今私が御話したい人は、名を Elliott Coates と云ひ、ワシントン市の有名な科學者であつた。彼は合衆國の靈智學會に於て、勢力と主權とを得たいが爲に、初はブ女史に向つて自分に權力を授け、ジャツジ氏を放逐すべしと云ふ暗示の手紙を送り、それからジャツジ氏を攻撃し、もし自分を主權者にしなければ靈智學會を破壊して仕舞はんと脅迫した。誰でもブ女史を知る者は、彼女は決して正道を離れず、脅迫に依つて動かされ、ジャツジ氏の如き忠實なる共同者を見捨てる様な人ではないと云ふ事を知つて居た。そしてブ女史はエリオットの方で、非靈智學的の態度を取り、靈智學の主義に反する様な事をしたが爲に、直ちに彼を脱會せしめた。そこで、此のエリオットは前に脅迫した事を實行し、靈智學運動を破壊せんとして、ブ女史の人格を汚す様な虚偽、誹謗の報告をニューヨークサン(新聞)に投書した。此の報告は、直ちに其新聞に掲げられた。そしてジャツジ氏は、ブ女史の爲に、此の新聞に對して其の記事取消の手續を始めた。其の取消訟訴が、未決中で未だ公判に付せられない内に、ブ女史は死亡した。それが爲に、其の手續は、法律上無効になり、其の新聞紙は放免となり、ブ女史の名譽はそれだけ回復せられなかつた。

次の事柄は靈智學運動の歴史中の出來事として最も注意すべき事である。即ちブ女史の死後間

もなく、ニューヨークサンの主筆 Dana 氏は女史の人格及び其事業に關する事實を幾分窺ひ知る機會のありたるを利用して、既に世に知られたる自分の高潔なる主義と名譽とにより次の社説を一八九二年九月廿六日發行の同新聞紙に自ら掲げた。

『H. P. Blysky の珍奇にして不思議なる生涯に就て W. Q. Judge 氏が記録したるものを別項に掲載す。吾人は此の機を利用して一八九〇年七月二十日にワシントン市の Dr. E. H. Cones の手に成りたる記事をサン紙上に誤つて記載するの愚を演じたるを謝す。其の記事中には女史の人格及び其の主義信仰且又其名譽を汚す如き事柄ありしも全く事實無根の事なりき。ジャッジ氏の記事はクルス氏が女史に向つて放つた攻撃を全く打破したるものにして、靈智學會及びジャッジ氏に關するクルスの非難は更に證據とすべきもの無く新聞紙上などに記載す可らざるものなりき。』

前に述べた攻撃と同じく Cones 氏がニューヨークサンに出した女史の攻撃は、他の多くの新聞紙に轉載せられた。併しニューヨークサンの取消文を載せ、或は其の取消の事にすら一言をも云ひ及ぼした新聞紙は私の知る處では一つもなかつた。其の新聞紙等は女史の名譽毀損の事は注意したが、虚偽の報告を訂正し、彼女の名譽を回復する爲には少しも注意しなかつた。

それ故に一般に布流した事は、女史の悪評ばかりであつて、今でも多少人心に残つて居る。女史の弟子及び其の後継者なるジャッジ氏、或はチングリー女史の弟子、即ち靈智學の普及に盡瘁し居る人々を除けば、女史の事業の偉大なる事を實際に悟り得る者は極めて少數である。彼女の著書ばかりでも、其の論ずる所は精神界の極めて廣い範圍に亘り又生存の大問題の解釋に一大光明を與へて居る。女史著の Isis Unveiled と云ふ本は、世界の非難を招いた。其の譯は其の序文に『此の書は何處からでも眞理を求め、社會の非難を顧みずして、之を保護せんと欲する人々の爲に、提供したものである。』と書いたからである。之は、靈智學、即ち昔の智惠教が始めて獨斷的教義の迷夢を覺さんとしたのである。即ち科學と神學とが共同して場所の如何を問はず、虚偽と迷信との夢を覺醒せんとしたのである。女史の著書中最大なるもの、即ち The Secret Doctrine は其の後數年を経て、即ち一八八八年に至つて、現はれた。

此の書は實に大著述であつて、ダーウイン説の眞理なる處は只其の一部分に過ぎない。而して進化論の原理を明らかにし又人間のみならず、世界及び其法則を説明して居る。此の書が始めて出版された當時に、迷信及び偏見の人々が、幻想迷夢の如くに思ひ居たる事柄は、科學的眞理として年々に證明せられた。其弟子の爲には『靈智學解説』を著し、内的精神生活の道を求めんとす

る人々の爲には、The Voice of the Silence と云ふ書を著述した。

### 會の生命及び其の指導者たるブ女史。

之を助くる者は靈智學運動の眞の目的に適ふ

#### ジャツジ氏のみ。

一八七五年の靈智學會組織の事を述ぶるに當り、抑もブ女史が米國に來たのは、此が爲であつたと云ふ事を忘れてはならぬ。其の計畫を立てたのは、ブ女史であつた。併し西洋の事情に慣れざりし故、其の建設に關する巨細の事務を H. S. Oloffe 及び W. O. Judge 氏に任したのである。併し現今の靈智學運動の基礎及び指導者となるべき智識を有つて居たのはブ女史ばかりであつた。ブ女史が此の智識を得たのは、研究及び旅行に依つてばかりでなく、自分の大指導者から受けたのである。其の大指導者とは、人生の奧義的眞理、即ち古人の智恵を有つて居て現今生きて居る極く少數の一人である。其の智恵は書物には書いてなく、代々或る人に依つて傳へられたものである。而して其の人々の代表者は現今チングリー夫人又世界同胞及び靈智學會となつて現はれて居る處の靈智學運動の保護者である。ブ女史は紐育で靈智學會を創立した少し以前に Oloffe と

云ふ人に會つた。彼は其の時までは此の靈智學のことを少しも知らなかつた。オルコットは誠實な人であつたには相違なからうが、眞の靈智學者に恥ぢない生活を爲さんと努めた證據はない。併し慥かに、ブ女史は彼の忠實であり、事業に熱心な處を見込んで、他の多くの人になしたる通り、彼に事業をなす機會を與へたのである。ブ女史は名聲を目的とせず自然を離れて靈智學を世人に知らしめ、之を世界の有力なる要素になさんとして、オルコットを出來得る限り賞揚した。彼は靈智學會創立の初期第一年度の會長に選舉せられ「創立總長」の稱號を得た。茲に記すべき事は彼の任期は一年間に制定せられ、正式には再選せられなかつた。又記憶すべき事はブ女史は皆其の弟子の知る如く、オルコットを待遇するに彼が大に智慮を顯し、其高尚なる性質を發揮し向上すべき機會を與へべきあらゆる手段を以てしたのである。もしオルコットがブ女史の死後其機會を續いて利用したならば彼は靈智學運動の歴史に於て最も光輝を放つて居たのであらう。Judge 氏は、事務の手腕及び法律に關する能力ばかりでなく、高尚なる精神的修養を積んだ人であつた。彼はブ女史の弟子及び共同者の中で、最も密接な關係を有して居て、人生の奧義的眞理に關して最も貴重な教訓を受けて居た。此の教訓はブ女史が他の弟子には誰にも授けなかつたのである。彼は生涯人類のために盡すべき、高尚なる目的の靈感を受けて居たと云ふ事は、彼を知

る人々の能く知る處である。

此の方面に於て、彼の生涯に大刺戟を興へたものは、彼の故國なる愛蘭の舊教に束縛せられたる憐れな状態を深く心に感じて居た事である。彼は十三歳の時でダブリンに居て、それから母の死後父と共に渡米した。ニューヨークで法律を修め、法律家として大に成功した。併し人生の普通の目的に満足しないで其の奥義を究めんとして居たのをブ女史が知る處となり、彼女の許に招かれた。此は一八七四年の事で、此の時からブ女史の死するまで彼はブ女史に最も忠義に仕へ助力し、後に其の後継者となつた。斯の如くにして、靈智學會創立の際に於ては其の首領としてブ女史あり、其の補佐として Judge 氏及び O'Leary 氏の二人があつた。オルコット氏は顯教の爲に盡し、チャップチ氏はオルコット氏と共力する傍ら、其指導者ブ女史のみならず、彼女の指導者から奥義の教を直接に受けたのである。(此の事はブ女史が自分で書類に書いて居る) 又彼は僚中に拔んでたる靈性的才能を以て奥義會の規則を制定した。そして此の會は彼の希望に應じてブ女史が一八八八年に創立した。此の奥義會の事は又後に述べやう。

人性を考究してブ女史が此會を創立した當時の世の状態を考ふる人は誰でも、ブ女史と共同して此の事業を起した人の中で Judge 氏を除けば、他に精神的眞理を解し又靈的生活の奥義を能く知る者は無かつたと云ふ事が分る。又實際其の時に於て、ブ女史の事業の眞の目的を知り、其の教義に適つた人は、Judge 氏のみであつた。元來ブ女史の事業に關係した人の中には野心を起す愛があつた。ブ女史と關係が最も密接で、將來の機會を伺つた人が二人あつた。一人はブ女史が其の運動の方法を指圖し、支配して居る間は、會に對して大に有益な事業をなしたつ、前進した。併し又野心及虚榮心を増長させて居た事は彼女の死後に至つて分つた。其の後に至つては、彼は其の師に對する恩義を忘れ、自ら靈智學會の歴史中の大人物たらんがために、此の教の傳播には、ブ女史の影響は餘りない様に云ひ觸らさうとした。今一人の方を見れば、其の日常の行に依りて見るも自知力を益々廣め、又知識を段々増進して行く事が明瞭であつた。自分の身を卑し、人の前に出て謙遜し、自分の位置を笠に着て人を威壓するが如き事なきは、何れも皆其の人格を證明して居る。又其の機關雜誌 The Path の記者として其通信或は記事に依り、亦單に彼が其場に居ると云ふ事だけで、たえず一種の精神的向上の氣を發し、彼の死後までも、崇拜し彼の生涯を模倣せんとする多くの忠實なる弟子に力を興へた。Judge 氏は其の雜誌 The Path に對して、初期に於ては少しも助力を受けず、往々其の記事は皆自分一人で書きながら、恰も數多の記

者が書いた様に見せた。併し彼は非常に變通が利いたから、誰も彼獨立の業なる事に氣が付かなかつた。彼は自分の法律事務所で終日仕事をして、それから自分の雑誌の編輯に終夜掛つて居た。又或る時は出版費用或は郵税に當てる爲めに、畫を描いて之を店に賣る事が度々あつた。又彼は世界萬國の人々と手紙の往復をした。即ち彼に教を求め人も多くあり、又難問解決の相談や種々の忠告を乞うた人も多くあつた。そして彼の言は多くの人に慰安を與へた。此の人を *Erriott クリス* が譏謗して排斥しやうとしたのである。ブ女史は自分の會のため、又靈智學のため、自分の生命をも顧みず、時としては、殆ど前後を考へず、身を犠牲に供した。又彼女は此の世に於ける自分の餘命は餘り長くなく、世界の必要、精神界の傲慢及び暗黒を觀察し、或は示導すべき光明を渴望して居る人々のある事を知り、自分の心中から湧き出で光明を放つ處の靈智學の使命が未來何時までも記録せらるゝ様に晝夜を分たず著述に従事した。ブ女史は過勞のために甚しく疲れたが、意志の力はかりで身體は疲勞しながらも、生命を保つて居た。併しエリオット氏及び紐育のサン(新聞)がなしたる此の最後の攻撃が彼女の死を早めたと云ふ事は疑ひのない事である。又此が爲め熱心の足りない人々は、幾分か靈智學會から脱會した者もある。兎に角攻撃の出た度毎に、少數の人は脱會した。其の譯は社會から非難せられ、或は不評判な會と同類者に見なされる

る恐の爲に、彼等は人類に對する愛を失ひ、敵彈を見て直ちに退く兵士の如く、其の會を脱し、又邪蘇に背いたピーターの如く、彼等は自分の師に泥を投げ付けたのである。Besant 夫人がブ女史に會見を求めたのは丁度千八百八十八年の此の頃であつた。彼女は靈智學に大に興味を有つて居つた。そして彼女は自分が公然傳布して居た教には間違があるのを覺り、又之を承認して居ると云ふ事を、證明し得る人がある。其の教と云ふは全く靈智學とは正反對の處もあつた。茲に記憶すべき事は其の當時 Besant 夫人は社界に出て居て、實際は評判の好い方ではなかつたけれど、或る種の社會事業には、能く慣れて居たと云ふ事である。そして又ブ女史は如何なる助力でも大に必要を感じて居たと云ふ事である。それ故にブ女史は、夫人の來た時に、生涯の方針を變更して靈智學のために盡すべき機會を彼女に與へたのである。

### 奧義會の設置。Judge 氏に對するブ女史の保證

靈智學運動の歴史に於ける出來事未だ公にせられざるものを述べんと豫て云つてあつた。此の中の或る出來事は會員間で所謂奧義部に關係して居る。此の奧義會は一八九八年にチングリー女史に依つて再設せられた。それと同時に世界同胞及び靈智學會はシカゴ市に於て始めて其の新



會則を定めた。さてチングリー女史の許諾を得たれば其の奥義會の歴史を少しく述べやう。

一八八八年にブ女史の大著書なる「The Secret Doctrine」が出版せられた。其年紐育に居た Judge 氏は倫敦に居たブ女史に手紙で左の事を發議した。即ち靈智學を日常の活力要素にし、其の奥義教を研究して、力を得んと熱心に希望して居る人々を會員として一團隊を作る事を發議した。此の會を維持するには如何なる大勢力があるか不審に思つた人が多數あつた。此の會が發達して勢力を得た原因は多くあるが、其の主なる一つは靈智學の事業を實行するが爲めに共力一致して居る前記の此の奥義會員の團隊である。

Judge 氏は其の師ブ女史の依頼により、奥義會の規則を制定した。其規則は今尚ほ實施せられて居る。此の會員の團隊では一つの誓約を結んだ。今之をチングリー女史の許諾を得て、諸君に紹介しやう。併し之を聞くに先だち、次の事を知つて置くに慥に諸君の参考になる。それはチングリー女史がローザンジェルズ、タイムズ新聞、及び其の記者 General Harrison Gray Ois 氏に對して、誹議の訴訟を提起した當時に、被告の論旨とする處は、靈智學會員は皆な其の行爲の細微な點に至るまでも、チングリー女史に服従すべしと云ふ誓に依つて束縛せられて居たと云ふ事である。其の束縛と云ふのは如何なるものであつたかは、今に分る。其の誓約は、被告の方の辯護士が提出したのであるが、多分誰か不忠實な靈智學會員の手から出たものであらう。其の當時チ女史の云ふ如く、持ち出された其の誓約こそ實に願つても得られぬ好都合のものであつた。其の譯は、其の誓約には會員は靈智學研究者（即ちチ女史が教師となり、會員が生徒となつて）としての外にはチ女史に對して個人としても、又自分の日常生活の如何なる點に於ても、服従の義務は少しもないと云ふ事を明示してある。其の誓約文は、法廷で讀み上げられた、そして此の會の總長なるチ女史に服従すべき義務は只靈智學の主義に對してのみであつて、靈智學運動の特別の事業以外には少しも關係して居る處がないのを、被告の辯護士が知つた時に狼狽した有様は實に滑稽であつた。其の義務と云ふのは次の事である。

ブ女史が Ois 氏に奥義會の會員たる許可を與へた事は決して無かつたと云ふ事は注意すべき事である。そしてブ女史の死後に至り、もはや指導を受けられない様になつた時に、彼は此の奥義會の團隊に對してのみならず個人として Judge 氏に對しても、非常に猜忌心を挾んで居たと云ふ事は彼の手紙により或は他の方面に於て明かであつた。奥義會に於てブ女史が誓約を要求しなかつた會員は只 Judge 氏のみであつた。其の譯はブ女史が自ら云つて居る如く、Judge 氏はそれより十三年以前、即ち靈智學會が紐育市に創立せられた年に、ブ女史の師に既に誓約をして居たから

である。それから十三年後、即ち一八八八年に始めて、靈智學會員となつた Bosant 夫人は誓を  
立て、此の奧義會員となり、其の規則の嚴守を誓つた。

さて、これから靈智學運動に於ける Judge 氏の位置に就て述べやう。彼が Elliott Cones から攻  
撃を受けた時に、彼女が彼を援護したと云ふ事は既に述べた。一千八百八十八年に彼女が米國靈  
智學會員總會に於て彼に公に送つた手紙を茲に掲げやう。其の手紙は左の通りである。

拜啓貴下に書を呈するに當り妾の希望する處は、四月廿二日に開會せらるべき靈智學總會に  
於て此の書簡を諸君の前に朗讀せられん事に候。同時に又靈智學會及び米國に於ける其の會  
の中心たる貴下に對し滿腔の祝意を捧げ申候。回顧すれば千八百七十五年に此の會を創立せ  
しは實に同志五六に過ぎざりしに候。爾後幾多の艱難を排して此の會の存立を保持せられし  
は、貴下のみが御座候。又今日まで靈智學會の存続するは殆んど全く貴下に與つて力あるも  
のと存じ候。妾が貴下に對して公けに心底より感謝の意を表する機會は之を以て始とし、又  
恐らく終なるべく候。實に妾の生を長らふるは、貴下が遺憾なく代表せられ、又忠實に盡さ  
れ居る主義のためのみに候。

此の盛典に際し貴下に左の一事を申上度候、即ち只妾の唱ふる處は他の一層神聖なる聲の

反響に過ぎずして、又一二に止まらざる眞の靈智學者、殊に貴下の心中に生き残れる大指導  
者の稱讃を傳ふるものに御座候。

エッチ、ビー、ブラブツキー

靈智學會亞米利加支部總務

ウイリヤム、キユー、ジャツジ殿

又同年十二月に、彼女史は左の一文を寄せた。

『靈智學奧義會長として、妾は宣言す。紐育市の William Q. Judge 氏を十三年間靈智學會に仕  
へたる功勞及び其の信用により、米國に於ける同奧義會の妾の唯一代表者となす。而して彼  
は奧義會員と妾との間に行ふべき凡ての通信の唯一機關なり。故に彼は充分なる信用を有す  
るものなり。』

而して彼女史は兼て生涯の目的を改むべき機會を與へ置きたるベザント夫人が後に至り、  
氏に對して無法なる攻撃を爲し、又 Judge 氏が忠實に守りたる其の位置を奪はんとせし彼女の野  
心を恰も豫期せしもの如く、千八百八十九年の十月に又次の事を書いた。

『米國に於ける靈智學會奧義部の死活は全く Judge 氏が其の代表者として留り、又今日の位置

を保つと否とに依るものなり。Judge氏が其の職を辭すると同時に、ブラザッキは事實上、米國人に對しては死せるものなり。』

なほブ女史は死後の米國に於ける自分の後繼者はジャツジ氏であると云つて居る。此の言葉の意味は全く此の外にはないのである。而して若しジャツジ氏が辭任したならば、米國に於ける靈智學は全く亡滅する事になる。此の事は後に至つて明らかになる。前に述べた如く靈智學會の始めての會長なる H. S. Ocott 氏は、此の與義會の會員では決して無かつた。其の與義會は前に述べた通り、靈智學會の生命であつた。後者は其の公然教を世人に傳布すべき只外面的の機關であつた。又與義會員中に、誓約する必要のなかつた會員は只ジャツジ氏のみであつた。併しベザント夫人は、其の與義會の規則を守るべき誓約會員であつた。又後に至つてブ女史は獎勵の爲め彼女を、與義會の記録係即ち書記に任命したに過ぎないので彼女を教師に任庸した事は決してないのである。

### ブ女史の死去。靈智學會の組織變更。 會員の大多數ジャツジ氏を補助す。

#### ジャツジ氏宛を雪いで後死す。

ジャツジ氏はブ女史の死後其の遺書并に同女史及び其の師に就きて得たる鍛練及び智識又自分の表はしたる功勞に依つて、ブ女史の唯一の後繼者たる資格を有して居た。彼はベザント夫人に大なる精神的進歩の道を教へ、ブ女史に忠義を盡し、靈智學の爲めに努力する機會を與へたのである。又ジャツジ氏はベザント夫人が靈智學の爲に、全力を盡すに何も故障はないから儘に自分の良心に訴へて其の公言する處を實行する事と思ひ、ブ女史が着手せし事業の實施に力を盡すべき機會を彼女に與へたのである。記憶すべき一事は彼の女の野心は後に於てこそ發露はしたが、其の當時に於ては少しも外部に表はれなかつた事である。そしてもし寛大に考ふれば、彼女は人類の爲めに盡さんが爲めに眞の靈智學の主義に叶つた生涯を送らうと努めて居ると思はれたのである。

ベザント夫人はブ女史の死後暫らくの間は、如何にも忠實に働いて居た様である。併し一年も経たぬ内に彼の女の野心は芽を出し始めてオルコットを攻撃し、彼を總長の椅子(好意的に就いた椅子で、任命したものでない)から追ひ除けやうとした。そこでオルコット氏は此の非道なる

壓迫を堪へ得ないで遂に其の椅子を辭した。茲に於てジャッジ氏は力を盡くし、米國會員に説いてオルコットの氏の辭職を實行させない様な方法を講じ、遂に氏は辭職を思ひ止まるに至つた。ベザント夫人は此の計畫に失敗し、自分の野心を（世界の靈智學會を支配せんとする野心、此は忠實な會員數多の意見であつた）妨ぐる者はオルコット及びジャッジの兩氏のみなる事を見て、ジャッジ氏の勢力を落さんと密かに狡猾なる手段を廻らして居た。之に就ては今まで彼女を信用して居た、或る會員等は大に豫想外に思つた事である。此の目的を果す爲めに、彼女は先世界の各處に秘密通信を企てた。此の事は「同僚靈智學者が悪口云はれて居るのを聞けば必ず之に反抗し、又他人を罪する様な事は決してしない」と云ふ自分の誓約を無視して、ジャッジ氏に就ての事實無根の非難を狩り立て、居た。

ジャッジ氏に對するベザント夫人の攻撃は、氏が印度に於ける自分の師（及び女史の師）の云つた事を故意に誤傳したと云ふ事である。併しベザント夫人の攻撃を聞いた多くの人はジャッジ氏が何か悪い罪を犯したに違ひないと思ふ様になつた。靈智學會員に近頃成つた計りの（千八百八十八年に始めて入會した）者、又女史の師から直接に教を受けた事は少しもなくて、只女史のみの教を受けた者がジャッジ氏の如き忠實なる進んだ靈智學者を彼此非難するとは實に甚しい

事ではあるまいか。遂に一千八百九十四年にベザント夫人は自分の師なる女史の名譽を毀損せしのみならず、ジャッジ氏を公然と攻撃した。ベザント夫人は自分の目的を遂げ、其の計畫を實行する爲に會の調和を亂さんとし又非常に奸猾で靈智學運動の主義、殊に自分が誓約會員の一人なる奧義會の主義を破壊せんとするものであつた。それがために、會の調和は甚しく攪亂せられ、容易に回復する見込がなかつた。そしてジャッジ氏は其の當時非常に過勞した爲め病氣であつた事を記憶しなければならぬ。

ジャッジ氏が辭職すればそれと同時に米國人と自分との關係が絶えたと女史が前に宣言したにも拘はらず、ベザント夫人はあらゆる手段を用ひてジャッジ氏を辭職させやうとした。斯くしてベザント夫人は自分の師を無視し、之に反抗して、ジャッジ氏を瞞着する手段として、もし彼が辭職すれば靈智學會に矢張り何か位置を得る事が出来ること云つた。之を以て見ればベザント夫人は米國に於ける靈智學會全部を犠牲にする積りであつたと云ふ事は明白であるまいか。彼女は自分の師女史の主義に正反對の行をしたのである。

紐育及びボストンの Aryan 靈智學會が指導して居た米國靈智學會員が此の事件に就て處決をせんと決心したのは此の時であつた。終に千八百九十五年にボストン市に於ける米國靈智學會大

會に於て十に對する百九十一の多數を以てジャツジ氏は終生會長に選舉せられた。そしてベザント夫人や其の連類者との關係を全く斷つに至つた。此の選舉には萬國の會員の多數が代表されて居た。そして其の人數は英國、ポーランド、スキーデン、獨逸、オーストリア、及び他の國の會員が同様な決議をしたが爲に益々増加して來た。印度に於てはベザント夫人に賛成した支部が有つた様子であるが、よく調べて見ると、此等の支部は、其の名のみであつて、其の實際の部員は僅かに三人であつた。此の事實はチングリー女史が千八百九十六―七七年に世界一週の旅の途上、印度に行つた時彼の女の代理者が之を精しく調査して確めた事である。斯くの如くジャツジ氏の正義は證明せられた。併し彼の餘命は只十ヶ月に過ぎずして、一千八百九十六年の三月廿一日終にあの世の人となつた。其の病の原因は兼て受けて居た苛酷なる迫害に多くは歸因する處であつた。米國に於てジャツジ氏攻撃の首謀者となり、又ベザント夫人が首領たりし不正の團隊を組織したる張本人は Alexander Fullerton であつた。彼の墮落の生活は此の時より始まり、終に彼は或小供に猥褻な物を郵送したために、捕縛されたのである。

ブ女史の云はれし如く『事實は嚴格なるものである。』併し若し弱者や罪なき者を保護せんとするには、其の事實をも道具に持ち出さなければならぬ。又かゝる不正の事があれば之を指摘し、

又之に反抗しなければならぬ。然らざれば吾々は云は、其の同類者となるのである。而して厭な事ではあるが、もし吾々にして其の事實を知り居れば社會を警告する義務があるのである。

一千八百九十五年ボストンに開きし靈智學大會に於てなしたる決議は當を得たものである、と云ふ事は充分明かに成つて居る。而して自分の目的を達せんがために社會を誤り、自分の利益を計らんとする人々が往々虚偽の事を傳ふるは彼等は吾々と少しも關係のない事を證明し且つ眞の靈智學運動の妨害を去るために却つて祝すべき事である。世には常に正道を求むる者が多くあつて、吾會には新會員が多く出来る。吾等は此等の人に對して義務を有し、又後世に吾が會の眞の歴史を傳へなければならぬ。

『世界同胞及靈智學會』は其の支部或は會員の數に關して何等の報告もしない事は能く知られて居る。其の譯は其の必要がないからである。會の影響は世界に廣がり又世界到る處に及んで居る。靈智學會々員の大多數は所謂 Members at large である。而して斯かる會員は通信などに依つて加州ポイントローマに於ける本部に直接屬して居るのである。

カセリン、チングリー女史 Judge 氏及びブ女

史の業を繼ぐ。會員の大増加。チ女史靈智學を日常生活に應用するの必要を説く。

ポイントローマの靈智學會に對する烈しき攻撃。

チ女史ローザンゼルスタイムス新聞社に對して誹譏の告訴をなす。

チ女史に對する卑怯なる無名攻撃。

靈智學會創立の初期には支部を置く必要があつた。其當時に於ては印刷所もなく、又諸國に亘る通信の機關も布教所もなかつた。併しジャツジ氏の死後間もなくチングリー女史が始めて靈智學運動の爲になしたる世界一週の旅行中にそれ等の支部を訪問せし時に、發見した事は次の様である。即ちジャツジ氏の死去前二年間の病氣中、種々の弊害が多數の支部に侵入して居た。高等教育を受けて居ながらも往々人を威壓迫害し、他の社會に出で、は人格なく決して成功しない様なものが勢力を逞うして居た。此の様な人は或は物質的方面に於ては有力であつたかも知れない

いが、精神的の方面に於ては大に缺くる處があつて地方の靈智學研究者の團隊を指導するには不適當な人物であつた。又或るものは自分の説を吹き立て、權力を得んとし或は公衆の前に於て自分の主義を吐露せんがために、その支部を利用せんとして居た。其當時支部の多數の状態は斯の如きものであつた。

事情斯くの如くなりし故、今まで存立して居た支部を繼續し、或は新に支部を設立するには大に躊躇する理由があつたのである。如何となれば、靈智學の傳播成功の如何は何事よりも先づ第一に之を唱導する人々の行爲と人格とに依るは明白な事である。

チ夫人の努力に依て世界同胞會及靈智學會には多くの新會員が出来た。此等の會員はそれまでは地方の支部に入る事を躊躇して居たものである。而してチ夫人が會長に成つてから一兩年中に世界中の會員の數は三倍に増加した。東洋から來た講演者がベザント夫人の會のためにサンデアゴ市に於て或る講演をした。彼の言は默過す可らざるものである。彼は或る虚偽的靈智學會の小團隊に關して次の様な事を云つたと云ふ事である。之は多分其の講演者が、自分の位置や自分が代表して居た會の位置を辯護する爲であらう。彼の言に曰く

「輪廻説や、Karma 又は靈的生活の眞理を唱導する以上は之を唱ふる會の名を問ふ必要はない。

大事な事は靈智學運動であつて、會名を問ふべきものでなからう。

事實を能く知らない人は矢張左様言ふかも知れないが、眞の靈智學者は決して左様な事は云はない。靈智學を唱へる人の行及び人格は實際大事である。又此等の眞理を教へる人は、之を日常生活に實行する事が必要である。敢へて問ふが此の世の中には既に偽善の事が餘り多いではなからうか。ブ女史の言ふ如く、「偽善は悪事中最も卑しむべきものである。而してチ女史が或る方面から攻撃を招いた譯は、彼女が靈智學を口にする者は之を日常の生活に實行しなければならぬと追つたからである。チングリー女史指導の下に靈智學運動の事業が段々進行するに従つて、其の會員の大多數は與へられたる機會を利用して大に好結果を表はした。併し何れの會にも皆ある異分子は、いまだ全く靈智學會より掃き去る事は出来なかつた。それ故に此會に於て奇功を博せんとする者が往々表面に現出し、會の眞の目的に相反する事業等を企て、靈智學を利用して自己の野心を覆はんとするものがあつた。併し如何なる場合に於ても其の様な人は靈智學會の主義を守る事が出来ないから、終には靈智學者たるべき高尚の理想と純潔の行爲との實行を迫られ、之に堪へずして會を脱して仕舞ふのである。併し此の種の沒道義者は利己の計畫を行ふべき機會を得れば、必ず之を實行せんと企てた。夫れ故に「靈智學」なる語は社會を誤らす虚偽の教を覆ふ

べき道具となるに至つた。併し一千八百九十八年シカゴ市に於ける大會に於て滿場一致を以て「世界同胞及び靈智學會」と改名し會の組織を變更し、また事業を擴張した事は、實に此の會の忠實なる會員及びブ女史の教を信仰する一般の人に取つては幸福となり、また之れがため將來會の分裂或は其の圖書の分散、或は偽靈智學者より妨害を受くる等の憂は全く取り除かれたのである。

余はチングリー女史が公衆に向つて同情を寄せ、其の偏見又は其譏謗すら止を得ぬ事と寛恕するのを度々聞いた事がある。其の譯は靈智學は悲しい事には此等の沒道義者の忌はしき行爲に依つて判断さるゝ事が度々あるからであるとチ女史は云つて居る。記憶すべき事は數年前にチ女史及び其の事業又は學校に對して英米兩國の黄色新聞が或る毒々しき虚説を傳へて、社會人心を驚かした事である。此の虚説を布流した主謀者は二人であつて、其の氏名は知れて居る。其の一人はニユオーリエンスの或る有名な醫者に就き（其の醫師の證明は吾手にある）風癲病の治療を四年間受けて居た。彼はチ夫人を倒してベザント夫人を擧げると暴言して居た。此の二人はチ夫人の傳記と稱へるものを方々へ散布した。併し其の傳記なるものは作り事であつて、其の大部分は全く虚偽で他は事實を捏造したものであつた。此の記事は出版又は郵送すれば危険だから、タイ

ライターで書き秘密に新聞記者に見せ廻はつた。併し此の記事を實際に見ても少しも信じなかつた新聞記者の氏名は公表する事が出来る。其の記事は耶蘇教牧師又ベザント夫人の有する會員、或はチ女史及靈智學會に對する悪評に耳を傾ける様な人には誰にでも送られた。そして此の二人の拵らへた甚しい虚偽的の記事は紐育市にあるゲーリーの小兒虐待防止會がチ女史に對てなした攻撃の材料と成つた。此の時にゲーリー會はポイントローマ(靈智學會本部)は小兒には適當せざる所なればとて、キユーバから其處に行かんとして居た十一人のキユーバ人の小供及び其の保護者なる吾が會の或る女醫とをエリス島の米國移民検査所に留め置いた。諸君は此の事件の顛末を知つて居らるゝでせう。即ちチ女史はポイントローマの學校の取調を米國政府に要求した。もし此の事件はざれば法律に訴へる積りであつた。(此の事は移民長官の能く知る處であつた)そして Sargent と云ふ移民局長が自ら其の學校を細密に調査し、ローズベルト大統領に對して其の學校は少しも不都合の點はないと報告をした。それから其の十一人の小供は政府の許を得てポイントローマに送られ、現今に至るも其處に居る。此等の人々がチ女史を攻撃する爲めに其の様な虚偽の作り事を傳布するに勞を取る必要が何處にあるかと人の怪むのは當然である。併し此の中の一人は大悪事を犯した事(終には縛に就いた)、又自分の偽善及び不道德の事實は何時かはチ女史

に依つて發かるゝならんと恐れて居たと云ふ事を諸君に話したならば彼が此の様な事をしてチ女史及び其の事業に不名譽を被らし、彼女の信用を失はしめんと企てた事が分るであらう。此等の事實は幾分か社會に知らせなければならぬ。如何となればチ女史や靈智學會が受けた迫害の真相を知る必要があるからである。その他此事件に與つた人々の名を詳細に擧げやう。サンデアゴ及び其の他の者で吾が會とは少しも關係のない人々が此の事件の真相は社會に對して公表すべきものであり、又公表しなければ社會に對して不公平であると吾々に迫つた事がある。或る人は『靈智學は誰が教へても教へる人には依らない』と事ふかも知れぬが、靈智學の眞の意味を知つて居る人は決して其の様な事は云はない。如何となればチ女史の言ひし如く『香水をドブ水のバケツに入れては、其の香氣を保存する事は出来ない。』それと同様に純粹の靈智學の眞理は之を日常生活に實行せんと努めざる人の口から傳ふれば、必ず汚されずには居ない。此の二人中の一人が犯罪をして此の頃法律の手に捕はれなかつたならば、直にチ女史に對する誹譏罪に問はれて紐育の法廷に引き出されたのであつた。其の共謀者は無責任の者であつて主謀者の道具に使はれたに過ぎない。此の事はチ女史の嚴父に自ら言つた事に依つて明らかである。其の嚴父は七十五歳の高齡に達して居たにも拘らず、其の當時に全力を盡して此の悪事を探し出して其の罪跡



を曝露せんと努めて居たが、餘り精力を用ひ過ぎて死去した。

### 靈智學會を利己の目的に利用せん

としたる惡漢の失敗。

### 靈智學及び其の本部の事業は

家庭不和の基なりとする讒謗。

靈智學會が利己の目的に功名を建てんとする人々に依つて利用せられた事柄は茲に充分に述べ  
る事は出来ないが、其中の著しい一二の例を挙げやう。此はチ女史が往々非難を受けて居る家庭  
分離問題の真相を明かにするに足るものである。世界同胞會本部が、ポイントローマに創立せら  
れし以來、親子又は夫婦の間を分離する如き家庭不和合の原因を靈智學と其本部とに歸せしむる  
様な事件が數度起つた。先づ第一に述べんとする事件は、或る男子が、數年以前より其の妻女を  
虐待せしのみならず、非常な不道德の行をした故に、其の妻は夫を捨て、離婚の許可を得、法廷  
は其の夫婦間に出來た一人娘の保護權を女の方に與へたと云ふ事である。そして其の女は、或  
る靈智學會員に再び嫁し、後に死去した。其女の遺言は、自分の娘を教育の仕上げにポイントロ

ーマの學校に入れ、家庭分離の原因たる其の父とは交通を絶たしむべき保護を其の子に與へて貰  
ひたいと云ふことであつた。其の娘がポイントローマの學校に入學してから間もなく其の父が其  
處に來て、其の子を引き渡せと要求し、又チ女史は父子を引き離すものである、と云ふ惡評を布  
流した。彼は其の事件をサンディアゴの裁判所に持ち出し、そしてチ女史は其の子を抑留して居  
ると云ふ訴訟を提起せられた。併し豫審となつて、其子が母の言つた事や父とは交を絶つて貰ひ  
たいと云ふ希望に關して事實を辯護士に陳述した。其の結果として其の訴訟は終に却下せられた。  
併しチ女史の敵及びサンディアゴ其の他の口性無い人や、又は黃色新聞は其の父の虚偽を信じ  
た。斯して實際の事實よりも早く無根の虚説は弘まつたのである。後に至つて分つた事であるが、  
其の父はチ女史や靈智學會の或る敵から此の攻撃をするに幫助を受けたのである。併し其の娘は  
今にポイントローマに居る。

其の當時人々を騒がせた今一つの事件はシカゴ市に居住して居た或る人が自分の妻子をポイン  
トローマに三ヶ月間遣つて置いて、其間に自分は太平洋沿岸及び布哇へ旅行をしやうとした事  
である。此の人は數年前より靈智學に對しては非常な敵であつたにも拘らず、ポイントローマに來  
て二人の子供の入學志願迄もした。(彼の妻は世界同胞及び靈智學會員であつた)。チ女史は此の人

を信用しないで、其の志願を拒絶した。併し其の妻は健康を非常に害して居たから、母子を費用自辨の客分として三ヶ月間其處に滞在を許した。其の夫は妻子に要する費用を前納してそれから前に計畫した旅行をしようと云つて其處を立ち去つた。併し其後二日と立たぬ内に彼は再び歸り來つて其の二人の子供をだまして伴れ歸らうとした。併し母が之を拒んだがために、彼は目的を遂げなかつた。そして其後チ女史に對して人身拘禁の訴訟を提起した。併し勿論チ女史は其の様な事には何等の責任も無つた。如何となればチ女史は其子供に入學を許さなかつたのであるから、其の責任は全然其の母に有つたのである。彼は十日前に自ら其の子供の保護を母に托したにも拘らず、此と同様な訴訟を妻に對して提起した。即ち彼の女は自分の小供を無理に拘禁したものであると申し立てた。チ女史が辯護士を伴れて法廷に出た。併し豫審となるや否や其の夫の願下に依つて訴訟は取消になつた。其の後間もなく其の男はローサンゼルス裁判所に此の事件を又持ち出した、法律の古い箇條はこじつけの解釋をせられ、裁判所の刑事がポイントローマに來り、其の小兒を伴れ去つた。そして其の當時母は病床に就いて居たにもかゝらず、自分の子に伴つて行つた。其の夫人が辯護士の忠告に依り夫の不利になる非常に重要な證據物を撤回したため、又彼女がシカゴ市に於て既に離婚の訴訟を提起して居たがため、又原告や證人が提出した證據の

大部分は偽證であつたがため、又小兒の保護権は人身拘禁の訴訟に依て、判決する事は出来ないにも拘らず、訴訟者の争の點は此れ以外にはなかつたが爲にローサンゼルス裁判所は其の小兒の保護権を一時其の父に與へた。其の譯は此以上の事は其の司法権以内に於て行ふ事は出来ないからである。そして其の母が其の小兒を永久に取り戻さうとするならば、シカゴの裁判所に行つて、訴訟を起さなければならなかつたのである。併し母は同市の辯護士并に親友の忠告に依り訴訟は起さなかつた。如何となれば數年前から家庭の調和を亂す大原因なる自分の夫と自分の母親とは自分を風癪病院に入れんとし居た事を慥な人から聞いて居たからである。しかも自分の夫は醫士であつた。此の様な事はイリノイ州では容易に出来る事の様である。彼の妻は失望の餘に、自分の夫は自分の母親と姦通をしたと云ふ理由で、加州の裁判所に離婚の訴訟を提起し、小兒の保護権を要求した。彼女の云ふ所に依れば其の母親なる人は非常に殘忍で且つ不道德な女であつたと云ふ事である。

其の男と共犯人であると云ふ此の婦人は彼のベザント夫人の靈智學の事業と關係して居たから、チ女史を非常に悪んで居た。そして此の婦人は以前にベザント夫人の講演者を世話した事があり、又チ女史がキューバに始めて布教の旅行をした時一面識もなかつたのに、醫士として同行を

志願して拒絶せられたがために、チ女史を何時までも怨んで居た。チ女史が其の旅行をした當時の大統領マツキンレー氏は、彼の女の事業に賛成して、多大の補助を與へ米國運送船 Berlin 號にてチ女史及び其の一行の醫員、看護婦、并に食料、藥品、衣類等を無賃で運送するの特典を與へられた。

不幸にして其の妻は加州に一年間居住して居なかつたが爲に加州裁判所は此の訴訟を取り上げる事が出来なかつた。のみならず書式に少々間違のあつたが爲に三ヶ月間も延期しなければならなかつた。其の間に彼の女の夫は、シカゴ市で訴訟を起し、妻が不在で反抗しなかつたが爲に、小兒を取つてしまつた。其の妻の云ふ所に依れば此の様に操行の亂れた此の男と最初の三年間我慢して同居する事が出来たのは、全くチ女史の御蔭であつたと云ふ事は注意すべき事である。

其の三年前に彼の妻はチ女史に次の様な事を依頼した事があつた。即ち數年前から自分の母親が自分の夫に道ならぬ關係を有し、自分に悪影響を及ぼして居るから、最早生きたがらへる事は出来ない。如何となれば、實際眞の家庭生活は亂されてしまつて望は絶えた様であるから、離婚の訴訟を提起する決心であると、チ女史に云つた事があつた。併しチ女史は今度は調和を計る事を努める様にすゝめた。此の男はシカゴの商人であつて、失望に沈める母の手から小兒を一時

奪ひ取つたが、妻が訴訟を提起する爲めに公にした彼の罪惡の外聞は打ち消す事が出来なかつた。夫れ故に彼は今日に至るも彼の女に怨を抱いて機會がありさへすれば、陰に廻つてチ女史并に靈智學會の名譽を毀損しやうと努めて居る。彼が此の讒謗をするのは大概談話中に試み、又或は通信中に上に述べた二人が流傳した虚説を焼き直して、散布して居る。而して彼は此の様な虚偽を云ふに證據があると云ふて居る。併し彼は證據を出せと迫られ、返答に窮した時には、何も證據はないが、新聞の記事に基いて、話をしたのであると云ひ逃れるのが常である。

其の他の人が自分の妻を追ひ拂はんとするに當り家庭の不和合の原因を靈智學及びポイントロームに於ける其の事業に歸し、之を利用して自分の誤謬を覆ひ、又社會の同情を求めんとする場合が今までにわつた。併し何れの場合に於ても其の様な人は皆失敗に終り、彼等の惡事が益々露れた。併しながら、此の様な讒謗者でも矢張吾が同胞であつて、無智、頑德者ではあるが、靈智學の救助の手は彼等をまだ放さないものである。今に於て吾等は彼等の非行を宥恕せず、彼等に對し吾等の盡すべき義務を盡したならば、彼等は此の世でなくとも、次の世に生れ變りて、償をすべき機會がいま一度はあらう。

以上述ぶる處は、靈智學が被つた多くの冤罪の一部分に過ぎないが、眞理及び正義を愛する

人にして此を讀むものは、必ず快とする處であらう。更に又靈智學の歴史中で目出度出來事を述ぶる機會のあるを信ず。

## 結論

ポイントローマに於ける事業。

School of Antiquity (『古代學校』) 大圖書館。

指導者としてのカセリン、チングリー女史。

今茲にポイントローマに於ける事業の發達を詳しく述べる事は出來ないが、此の様な簡単な歴史にでも之に就て一言だけは述べなければならぬ。

先づ第一に世界同胞及び靈智學會の本部は加州ポイントローマにある。そして前に述べた如く、此の會は一千八百七十五年に紐育市に於てブラブツキー女史が創立した元の靈智學會を繼續したものである。此の本部に於て世界中に亘る會の事業が前述の如く行はれて居る。我が會員は女史が會長になつてより初の二年間に其の數が倍に成つた。そしてその上過去一年間に其の會員の數は少なくとも五倍になつた。布教及び通信部は非常に繁忙を極め居り、又アーリアン靈智學

出版部(一八八八年に紐育市でジャツデ氏が創立し。今はポイントローマにあり)は最新印刷機 Linotype 機械、製本部、製版部等を具備して居るけれども、全世界の靈智學に關する出版物の需要を充たす事は到底出來ない。ポイントローマに於ける最も趣味多き生活状態の一つは、學校生活である。一八九七年にチングリー女史は『古代學校』(The School of Antiquity)を創立した。其の目的は次の如くである。

『此の學校の位置は米國にあるけれども其の性質としては、世界的であつて、世の暗黒を照らすべき活きたる光を放つ燈臺である。其の本校及び分校に依りて世界の小兒は生理的法則及び身體的、道德的及び心的健康、并に精神的陶冶を受けるのである。又自然と調和して生活する事を學び、凡て生物に對して眞の愛護者となり、又己を知るに堅固なる自信力を得、而して益々力を得るに従つて、之を全世界の利益のために用ゆる様になる。』

又此の學校と連絡せる『古代學校圖書館』がある。其の圖書館には珍書及び高價の書籍が多くある。此の圖書館の基礎は數年以前に Rev. S. T. Neill 氏が立派なる藏書を寄附したものである。爾後其の圖書館は非常なる膨脹をなし、現今にては數千部の書籍を藏するに至つた。此等の書籍は、今の處假の建物に納めてあつて、『古代學校』の建物が出來上れば、此處に永久に保存さ

れるのである。そして、其の建築には既に着手して居る。此の他ポイントローマにはアーリアン  
 靈智學本部圖書館もある。

既に『古代學校』の生徒中には社會のあらゆる階級及び職業(音楽家、畫家、文學者、醫士、法律家、機關士、商人、職工)に従事して居る者がある。皆チ女史を師として仰ぎ、感謝して居る。實に此等の生徒は其の師チ女史より貴き靈智學及び智惠教の教を受けて幸福なものである。チ女史の最も近い弟子は、實際の経験よりして、彼の女は前きの會長で有名なるブ女史并にジャツジ氏と同じ源から智識を受けて居ると云うて居る。又ブ女史が忠實なジャツジ氏ばかりに傳へた教が多くある。又ジャツジ氏がブ女史の師から直接に受けた教もある。此の兩人の受けた教は皆チ女史に傳へられて居る。チ女史が既に有つて居る智識と共に此等の教はポイントローマの生徒に授ける奧義的教の基礎となるのである。併しそれは勿論之を受くる資格が出来た上の事である。そして此の教は非實用的なる神祕的のものでなくて、實際實用的のものである。又不思議なる現象を、いたづらに起す様なものではなく、又奇變なる透視力などを誘起するものではない。此等の術は精神的行爲、即人間の靈性的生活には何も關係なくして却つて之を妨げるものである。チ女史の教は、最も實用的で、日常生活に實行し得べきものである。其の教は人間の性質を淳

化し、克己心を發動せしむるものであつて、家庭に祝福を與へ、之を實行する人々の生活に助力を與へるものである。又人生の意味及び其の進歩の道を教へるものである。

ポイントローマは智識の大中心になる運命を有し、又既に幾分之を實現して居る。此處では神聖なる人生科學即ち靈智學の奧義を研究して居る。而して其の研究者は人生未來の幸福増進に就て、一層深玄にして重要な研究に従事して居る。此の結果は時が熟すれば世界に顯れるであらう。

## 附言

未だ事實を能く知らざる人々のために次の記事を掲ぐ。(『人道の友(Humanity's Friend)』としてのカセリンチングリー』と云ふ冊子の十七頁を見よ)。

一千九百〇一年十月にタイムス、ミラー商會(Times-Mirror Company)の經營にかゝるロザンジエリス、タイムス新聞に或る記事が出た。其の新聞の社長兼編輯長はHarrison Gray Oisと云ふ人であつて、其記事中にはカセリン、チングリー女史并にポイントローマの學校に就て、甚しい虚偽の事が書いて有つた。此が爲にチ女史はタイムスミラー商會及び社長オチス氏に對して誹議の訴訟を提起した。此の事件は一千九百二年の十二月及一千九百三年の一月にサンデアゴ市の大

審院の判事 Torrance 氏の取調を受け、終に裁判の結果其の年の一月十三日に多額の損害賠償金はカセリンチングリー女史に與へられ、又チ女史及ポイントローマの學校は全く正常なる事を認められ、原告勝訴の判決を申し渡された。オチス氏は其の當時新聞同盟會(The Associated Press)の副會長たりし事は讀者の注意に價するものである。Torrance 判事は陪審官に向つて被告オチス氏がなしたる陳述、及びチ女史に對する彼の非難に就いて再三再四次の様に云つた。

『今やその非難には法律上何等の正義とすべき證據なき事を諸氏に確言す。故に諸氏は之を虚偽と認むるを要す。』

又彼は陪審官に次の如く云つた。

『諸氏が此の事件の真相を明白に確知する事は大に重要な事である。此の事件は法廷の職分範圍以内に於て次の如くに判決を下す。

第一、此の訴訟を構成する處のローザンジェリスタイム新聞の記事は原告の訴ふる如く解釋し得られる。

第二、被告及び其の辯護士は原告が解釋したる此の記事の意味を否定せざる限りは、此の記事は其の意味を以て掲げられ、又讀者に左様解釋せられたるに相違なし。

第三、此の記事は原告の解釋したる如くすべての點に於て、法律上誹謗なり。

上記の如く陪審官は原告に多額の賠償金を與ふべき判決をした。又控訴院の判決は加州大審院に於て是認せられた。

一千九百七年四月三日のポストン、トランスクリプトと云ふ新聞に次の如く特電の記事が出た。

### カセリンチングリー女史訴訟に勝つ

加州大審院はローザンジェリス新聞社に對する七千五百弗の賠償金支拂の宣告を是認す。

カセリンチングリー女史はローザンジェリス、タイムス新聞の發行者たるタイムス、ミラー商會(編輯長ハリソングレーオチス)に對する誹謗の訴訟に於て勝利を得たり。サンデアゴ控訴院の判決及び七千五百弗の賠償金仕拂宣告は加州大審院に於て是認せられたり。オチス氏が大審院に上訴してより三年間此の事件は未決になり居りしが大審院は終に被告方の辯護士より抗議簡條を提出せしにも拘はらず、チングリー女史の勝利に判決を與へたり。

世界の人類及動物の爲めに設立せられたる

## 世界同胞及靈智學會

眞理に勝る宗教なし

### 目的

本同胞會は太古より活動し來れる世界的大運動の一部分なり。

本會は「同胞主義」を以て自然界の一事實とし、其の主要の目的は同胞主義を教へ、之を證明し、人生の活動力となすにあり。

第二の目的は往古及び近世の宗教、科學、哲學、及び美術を研究し、天然の法則、及び人間の靈性を考究するにあり。

「世界同胞及び靈智學會」は何人を問はず、眞に同胞を愛し、太古以來人種及び宗教の差異より生ずる害惡を根絶せんと欲するもの、又は眞理を心より愛し、欲界の一次的歡樂に勝りたる精神的高尚の物を得んとし、靈智學をして人生の活動力たらしめんと努むる人々の入會を歓迎す。又本

會諸部は此等の人々に活動の機会を無限に與ふるものなり。  
本會の事業は總て其の憲法の示す如くカセリンチングリー女史の支配を受くるものなり。



# 萬國同胞組合

(一八九七年カセリンチングリー創立)

## 『世界同胞會及靈智學會』の博愛的實業部。

### 目的

- 一、男女をして其職業の神聖なるを覺らしめ人生に於ける其眞の位置を自覺せしむるを助く事。
- 二、世界同胞の大主義に基きて世界萬國の子弟を教育し、貧困孤獨の小兒をして人類のために働くものたらしむる事。

- 三、不幸の境遇にある婦女を助け高尚なる生活を營ましむる事。
  - 四、入獄中、或は出獄したるものを補助し、正業につかしむる事。
  - 五、死刑を廢止する事。
  - 六、所謂野蠻人種と文明人種との間の融和を計り、兩者間に親密なる同情的關係を増進せしむる事。
  - 七、洪水、饑饉、戰爭其他より生ずる人類の災害を救済し、世界中一般に惱める人に對して慰安の道を計る事。
- 以上に関して尙詳細を知らんとするものは左記へ照會せらるべし。

北米加州ポイントローマ

靈智學會本部書記

The Secretary,

International Theosophical Headquarters,

Point Loma, California, U. S. A.



明治四十四年  
明治四十四年  
十月九日印刷  
十月十日發行

發行人兼

相州逗子

イー、エス、ステブンスン

發行人兼

相州逗子

宇高兵作

印刷者

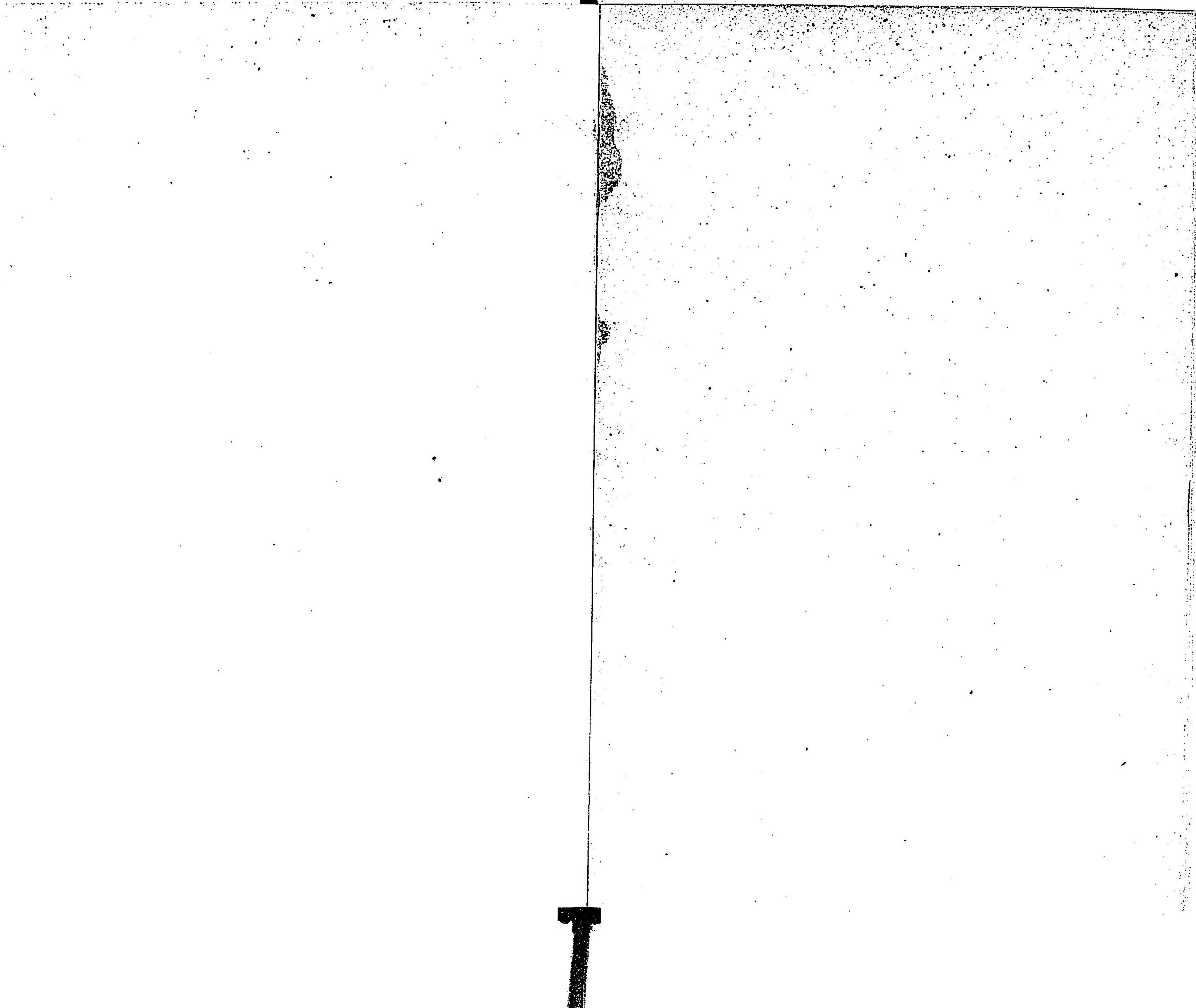
東京市芝區新堀町十三番地

淺野鐵二郎

印刷所

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

東洋印刷株式會社



327

404

